

都市再生整備計画 事後評価シート
敷島・双葉地区

平成27年2月

山梨県甲斐市

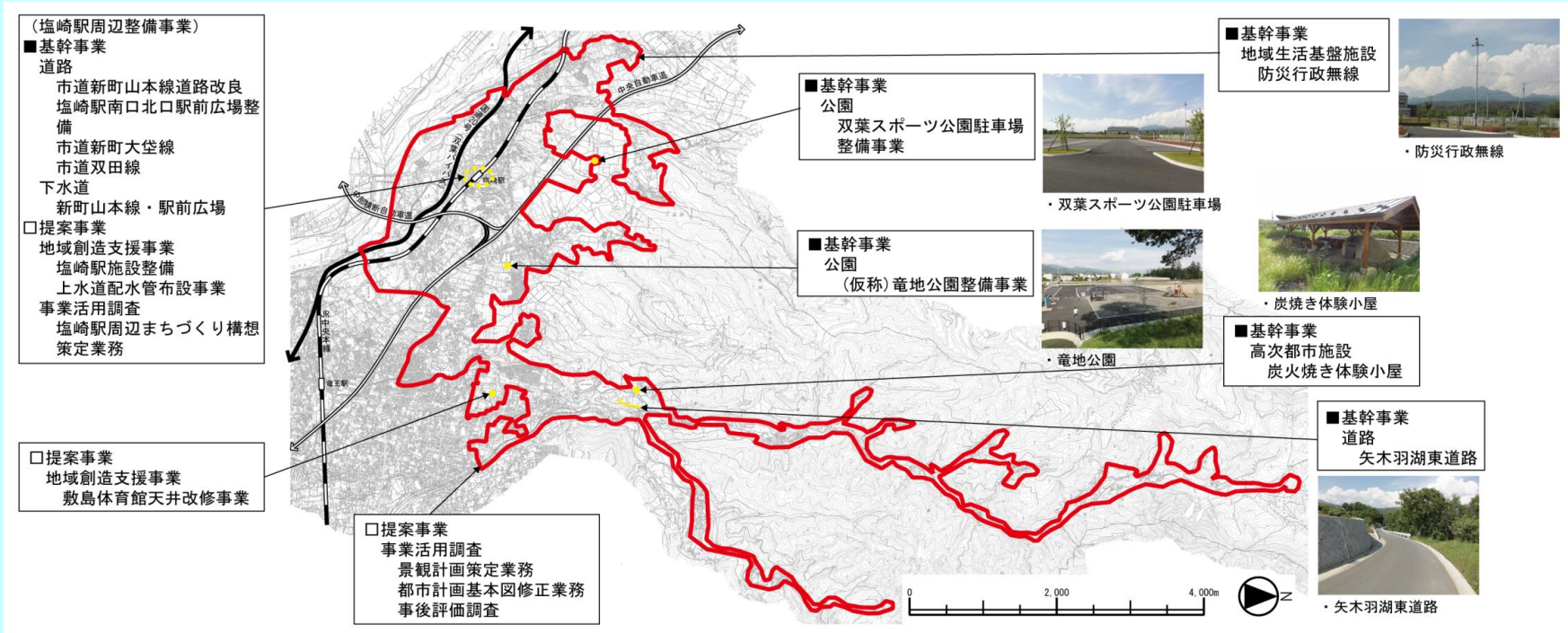
様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 山梨県 | | 市町村名 | 甲斐市 | | 地区名 | 敷島・双葉地区 | | | 面積 | 1.047ha | |
|--------------------------------------|------------------|---|---|--------------------------|---|--|----------|--|--|---|--|-------|
| 交付期間 | 平成22年度～平成26年度 | | 事後評価実施時期 | 平成26年度 | | 交付対象事業費 | 3,086百万円 | 国費率 | 0.4 | | | |
| 1)事業の実施状況 | 事業名 | | | | | | | | | | | |
| | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | 基幹事業 | 道路(矢木羽湖東道路)、公園(双葉スポーツ公園駐車場整備、(仮称)竜地公園整備事業)、地域生活基盤施設(防災行政無線)、高次都市施設(炭焼き体験小屋) | | | | | | | | | |
| | | 提案事業 | 地域創造支援事業(敷島小学校校舎増築事業) | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | 基幹事業 | - | | | | | | | | | |
| | | 提案事業 | 地域創造支援事業(敷島小学校校舎増築事業) | | | | | | | | | |
| | 新たに追加した事業 | 基幹事業 | 道路(市道新町山本線、塩崎駅南口北口駅前広場、市道新町大笠線、市道双田線)、下水道(新町山本線・駅前広場) | | | 駅利用者の利便性の向上と歩行者の安全性確保、公共施設の耐震化の推進のため事業を追加した。 | | | 塩崎駅周辺の歩行者の安全確保の事業を追加したことに伴い、目標を定量化する指標に「駅からの公共施設及び商業施設を結ぶ歩行者空間の安全性の確保」を追加した。 | | | |
| 提案事業 | | 地域創造支援事業(塩崎駅施設整備、上水道配水管布設、敷島体育館天井改修事業)、事業活用調査(塩崎駅周辺まちづくり構想策定業務、景観計画策定業務、都市計画基本図修正業務、事後評価業務) | | | 駅利用者の利便性の向上、公共施設の耐震化、事業効果の持続性や効果的なまちづくりの推進のため事業を追加した。 | | | 「防災対策への満足度」、「体育館の利用団体数」の数値指標に影響があるが、目標値は据え置いた。 | | | | |
| 交付期間の変更 | 当初 | 平成22年度～平成24年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | 数値目標に対して若干の影響は考えられるが目標数値は据え置いた。また、交付期間の延長に伴い、目標年度を平成26年度に変更した。 | | | | | | |
| | 変更 | 平成22年度～平成26年度 | | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | 達成度 | 達成見込み | (総合所見) | 予定時期 | |
| | 指標1 | 防災情報のネットワークの整備率 | % | 85 | H21 | 100 | H26 | 100 | ○ | あり なし | 地区内の防災無線のデジタル化が完了し、全ての自治会に子局が設置され、整備率は100%となり、目標を達成した。 | - |
| | 指標2 | 防災対策への満足度 | % | 50 | H21 | 70 | H26 | 74.6 | ○ | あり なし | 地区の防災機能の向上に伴い、市民の防災訓練なども活発に行われ、市民の避難場所の認知度が大幅に向上し、目標を達成した。 | - |
| | 指標3 | 体育館の利用団体数 | 件/年 | 683 | H21 | 750 | H26 | 1,093 | ○ | あり なし | 建物の建て替えや駐車場整備により、施設の魅力や利便性が大幅に向上したことにより、利用団体数増加し、目標を達成した。 | H27.4 |
| | 指標4 | 駅から公共施設及び商業施設を結ぶ歩行者空間の安全性の確保 | % | 64 | H21 | 89 | H26 | 73.6 | △ | あり なし ○ | 塩崎周辺整備に遅れが生じており、周辺道路の改良整備も予定より遅れている。従前値より改善が進んでいるが、目標達成には至っていない。 | H28.4 |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | 達成度 | 達成見込み | (総合所見) | 予定時期 | |
| その他の数値指標1 | | | | | | | | | あり なし | | | |
| 4)定性的な効果発現状況 | | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | 実施内容 | | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | |
| | モニタリング | なし | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | | | | |
| | 住民参加プロセス | ・市民対話集会 ・審議会委員等の住民公募 ・パブリックコメントの実施 ・自主防災組織の資機材点検・整備 | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ○ | 市民との意見交換や各種審議会委員への市民参加の公募をし、協働によるまちづくりを推進する。市民が意見や提言を行うことができる公聴制度の充実を図る。自主防災組織による防災資機材の整備を図る。 | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | ・歩行者の安全性確保(高齢者と子供の帰り道ふれあい事業) ・自然景観の保全(NPO法人敷島棚田等農耕文化保存協会) | | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ○ | 歩道整備と、見守り活動の継続という両面から、歩行者の安全性を高め、いくととも、あいさつを交わって地域の交流を深める。景観条例を施行予定であり、NPOの活動と併せて自然景観の保全を図っていく。 | | |

様式2-2 地区の概要

敷島・双葉地区(山梨県甲斐市) 都市再生整備計画事業の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | 従前値 | 目標値 | 評価値 | |
|--|------------------------------|---------|---------|---------|-----------|
| 大目標 人が安心、安全に暮らし、活気あふれるまちづくりの推進 目標1 安全で快適に暮らせるまちづくり 目標2 活気にあふれるまちづくり 目標3 心豊かで文化のかおるまちづくり | 防災情報のネットワークの整備率 | 単位: % | 85 H21 | 100 H26 | 100 H26 |
| | 防災対策への満足度 | 単位: % | 50 H21 | 70 H26 | 74.6 H26 |
| | 体育館の利用団体数 | 単位: 件/年 | 683 H21 | 750 H26 | 1,093 H26 |
| | 駅から公共施設及び商業施設を結ぶ歩行者空間の安全性の確保 | 単位: % | 64 H20 | 89 H25 | 73.6 H26 |
| | | | | | |



| | |
|---------------------|--|
| まちの課題の変化 | <ul style="list-style-type: none"> 整備が完了した避難所等の施設を、災害発生時に適切に運営していくためのマニュアルの整備が必要である。 自主防災組織の活動が効果的に実践されるために必要な地域の自主防災活動の中心となる防災リーダーの育成が必要である。 塩崎駅周辺整備事業の進捗が遅れており、事業が計画通りに完了していない。 水道施設を含めたライフラインの継続的整備が必要である。 防災行政無線の整備により、場所により複数の子局から放送が聞こえ、音が反響してしまうので、スピーカーの向きの調整が必要である。 |
| 今後のまちづくりの方策（改善策を含む） | <ul style="list-style-type: none"> 避難所としての機能を一層強化していくため、防災資機材及び非常時の電源確保といった整備を推進する。 避難所運営に関するマニュアルの整備を行う。 配水管の改修やループ化の必要性を調査検討し、結果に基づいた整備を行うことにより、安定した水供給に努める。 防災、減災対策を推進するため、市民に正確な情報の伝達を図る。 防災リーダーを育成し、地域の自主防災活動を強化する。 塩崎駅周辺整備を継続して推進し、早期の完成を目指し、利用者の利便性の向上と安全性の確保を図る。 |